

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども通所サービス ちゅうりっぷ		
○保護者評価実施期間	R7年 2月 20日		～ R7年 3月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	R7年 3月 1日		～ R7年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 24日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	長期休み等、時間に余裕がある時は外出して、お買物学習や地域とのふれ合いのできる環境を作り、子ども達が楽しい時間を過ごしながらかommunication能力の向上や社会性の大切さを伝えられるようにしている。	季節ごとの行事や体験学習を通して社会性や自立心を養う場を提供しています。	公共におけるルールやマナーが身につくことができる。行き場所が固定化になるつづがあるため、違う場所や体験できていない場所などがあれば実施できるようにしたいと思っているが、車椅子児童もいる為、中々多彩に行けてはいいが良いい場所があれば実施していきたい。いつもお世話になっている場所からは顔を覚えてもらったりもしている。
2	毎日のミーティングを行い、子ども達の細かな情報を素早く知ることによって情報共有できている。	グループLINEなどを利用し、職員全体で情報共有ができています。	送迎時でのこまめな会話やお友達同士の会話などもしっかりと聞いて子まめな情報でもメモにとりミーティングノートに記載するなどしている。子どもの情報をしっかりと把握ができる。
3	長期休みは子ども達全員に自己紹介などを毎日していることから、人前での挨拶やcommunication能力の向上を図れる。	毎日の一人ずつ前に出て挨拶や発表をすることで、自身の自信につながり、communication能力の向上が図れる。	・発表内容を変えたりして人前に出ての発言が自信へと繋がり、より強くなることでcommunication能力の向上が図れ、社会性へとつながられるように続けていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会が少ない。	障がいのある子どもとない子どもと一緒に活動する意義や方法について関係者間の理解が進んでいない。	交流する機会が少ないため、地域のイベントやお祭りなどに参加できるように工夫した活動を取り入れていく。
2	保護者様同士のつながりが少ない。	個別ではつながりができているようではあるが、関係性を大切にしながら保護者会など催す努力をする。保護者同士の連携を図ることにためらう保護者がいる。	機会があれば開催したいが保護者会同士の連携にためらう保護者がいるためスムーズに開催ができていないでいて難しい。イベント等を利用して保護者の方が参加しやすいように工夫する。
3	平日の活動時間が短く宿題をする子どもが多く、時間に限りがあるため活動する時間が短い。	充実した活動をもっと考えて支援していく。	児童の利用日の調整や保護者との連携をはかり宿題を自宅でしてもらったりして調整して集団での活動の支援を充実できるように考えていく。